

炎症性腸疾患に対する新薬の特集

第2弾 ジセレカ®錠

—潰瘍性大腸炎—



特徴

ジセレカ®錠（フィルゴチニブ）は過去の治療において少なくとも1つの既存治療薬（ステロイド、免疫調節薬等）で効果不十分であった中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入及び維持療法に使用するヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬です。

JAKは体内の液性因子であるサイトカインの働きで、炎症を誘発する信号を細胞内に伝え、炎症を引き起こします。ジセレカ®錠はこの伝達を阻害し、大腸での炎症を抑えることで、潰瘍性大腸炎の症状を改善させます。もともと関節リウマチに使われていましたが、潰瘍性大腸炎に適応が追加されました。

使用法と注意点

同じ作用機序を持つ他のJAK阻害薬のゼルヤンツ®錠（トファチニブ）やリンヴォック®錠（ウパダシチニブ）は寛解導入期と寛解維持期で用量が変わりますが、ジセレカ®錠では用量は変わりません。1日1回 200mg（腎機能低下のある方などは100mg）1錠を服用します。食事のタイミングに関係なく服用できるため、ご自身で内服時間を決めて飲み忘れのないように服用してください。他のJAK阻害剤や生物学的製剤、タクロリムス、シクロスポリン等の免疫抑制剤との併用はできませんが、免疫調節薬（アザチオプリン、6-MPなど）との併用は可能です。

動物実験にて催奇形性（児に影響を与え、形態的な異常を生じさせる性質）が認められたため、ジセレカ®錠服用中の女性は妊娠を避ける必要があります。服用中と服用終了後少なくとも1月経周期（次の生理）までは適切な避妊を行ってください。また、服用中の授乳も控えてください。動物実験において、ヒトに使用している通常量より高い用量では精子形成障害があり、男性の生殖機能低下が心配されていました。しかし、今年の臨床試験でヒトでは明らかな影響は示されませんでした。

副作用として、免疫の働きが低下し、帯状疱疹などの感染症になりやすくなる場合があります。発熱・咳や、皮膚の違和感や痛み、皮疹などが出現した場合は速やかに医師に報告してください。血液検査で異常が出ることもあり、ジセレカ®錠内服中は定期的に血液検査を行い、好中球・リンパ球・ヘモグロビン値、腎機能・肝機能などの異常がないことを確認していきます。

次回は、リンヴォック®錠について紹介させていただきます。

（文責：薬剤師 南有里）